

電材関連の受託製造拡充

五興化成 反応設備を刷新

森六グループの五興化成工業（福岡県大牟田市）は、新規ビジネスへの取り組みを強化する。受託製造拠点である大牟田工場の反応設備の刷新によって有機溶剤を使用した有機合成が可能になったことからこれを活用、今後、電気・電子関連材料などの受託製造を拡充していく方針だ。

オリジナル製品も検討



新しく完成した乾燥棟（左）と反応棟（右奥）

五興化成工業は無機および有機化学品の受託製造を主力業務としており、医薬原料や医薬品、中間体、工業薬品・有機合成薬品、電材原料・中間体、自動車用機能材料などを製造している。生産設備については、

2023年6月からGL（グラスライニング）釜を増設して反応設備を一新している。新たな反応棟では、従来の水系反応に加え有機溶剤を使用した有機合成が可能になった。反応、固液分離、乾燥、粉碎、梱包など個々の処理にとどまらず、連続した一貫製造も請け負っている。これまで建設中だった乾燥棟も完成、稼働を開始する。

さらにラボ室の実験設備や分析機器の充実を図っており、ラボ少量試作、プロセス化検討、受託研究、試薬調製、小分け対応も行っている。反応設備の刷新によって有機溶剤使用の有機合成が可能になり、受託できる製品の幅が拡大、量の増加も見込まれるため、今後同ビジネスを拡

充していく考え。同社は3年から、パソコンやスマートフォンなどに使用されている電気・電子関連材料の新規案件に取り組みしており、徐々に成果が出始めているという。今回の設備更新がこの案件の増加に貢献することを見込んでおり、今後は現在行っている同材料の試作に加え、量産への対応を視野に入れている。

このような取り組みに加え、将来的にはラボ室の活用によるオリジナル製品の開発も検討する。